

学校施設の被害状況

【構造体の被害状況について】

今回の震災は、地震動としては必ずしも想定される最大レベルではなかった。

- 最大レベルを想定している新耐震基準の建物及び補強済みの建物は、おおむね小規模な被害以下にとどまっている
- 一方、新耐震基準以前の未補強の建物は、中破以上の被害も見られるなど、比較的被害規模が大きい傾向

※ 傾向としては概ね以上の状況だが、学校施設の安全性確保の観点から、今後、引き続き被害状況の収集・分析を進めることが必要であるが、現時点で把握できている被害状況だけ見ても学校施設の耐震化は子どもたちの安全を確保する上で重要であることは明らかである。



柱や壁の崩壊（旧耐震基準で建築された学校施設）

【非構造部材について】

非構造部材は、天井材、照明器具、外壁（外装材）の被害が多かった

（平成23年6月16日現在）

公立学校施設の被害学校数	非構造部材の被害		
	天井材の被害	照明器具の被害	外壁の被害
6,484校	1,636校	410校	968校

※都道府県教育委員会からの報告により把握できる範囲の被害状況であり、網羅的に調査したものではない。